

# 戦 評 用 紙

高松宮記念杯第49回全日本実業団選手権大会戦評

平成 20 年 8 月 1 日 於

15時00分より  
16時20分まで

審判 家永昌樹・福島亮一

立会人 南正二

チーム

チーム

大同特殊鋼 ( 14-11 ) 大崎電気  
14-17

決勝リーグ一試合目の大切な試合であり、互いに気合の入った厳しいディフェンスで試合が始まる。

147.大崎21 宮崎がパスカットからの速攻で先制するが、233 大同④富田のポストシュートで皮切りに大同が5連続得点で4点差とする。8'03 大崎4番前田のミドルシュートから一進一退の攻防が続く。15分すぎ大崎が2人をつけて退場し4人の状態となるが大同は流かせず逆に21番宮崎のミドルでのルーフシュートで3点差に詰めよる。前半終了間際29'53 大同が速攻で得点し4点差とするがすぐ大崎19猪俣が29'58に取り返し3点差の14-11で前半を終える。

後半立ちあがり、100大崎14番岩永の得点から3連続得点で、2'30で同点に追いつく。その後互いに4秒すぎ気合の入ったゲームが続き、19'10 大崎加藤瑞希を一人出したところを大同が連続得点(28')3点差にするが大崎もすぐ(31)に取り返し22'18 点差1追いつき大同は1人退場者を出す。つづいて22'54 大崎の14番岩永の速攻にたどり

観評記入者

井上洋文

→裏へ

ファールをして退場し、大同は4人の状態となる。しかし  
大崎は再三のチャンスを活かせず、~~無得点~~。

26'15 大崎14番岩永のシュートで同点に追いつき、

互いに取決めはとり返すの展開となる。~~25-25~~

28'59 大崎14番猪妻が7mシュートで落ちついで決め、  
緊張の一分間かつつか。そのままタイクアム。

互いに食追のこも、た熱の試合を同点で  
終えた。